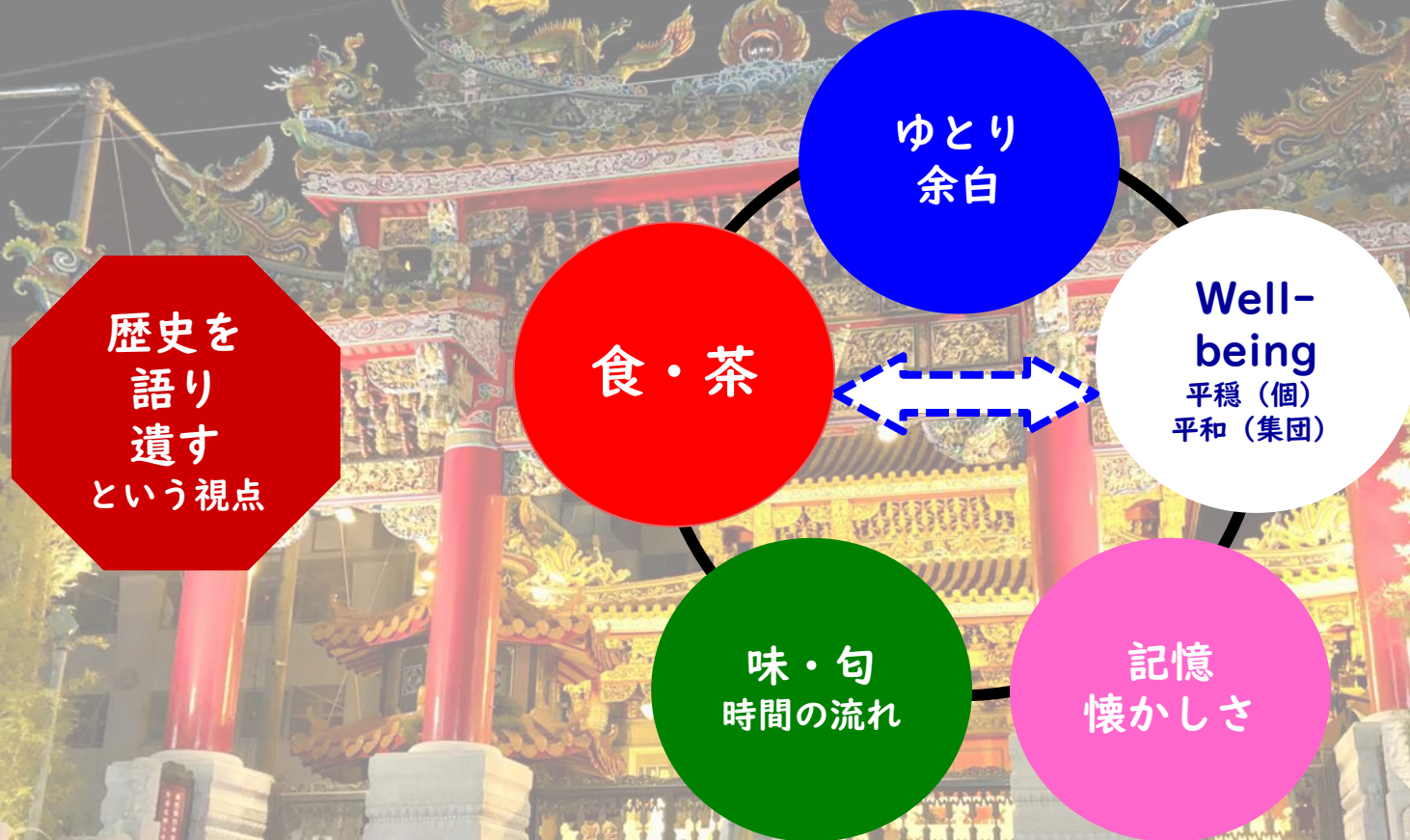
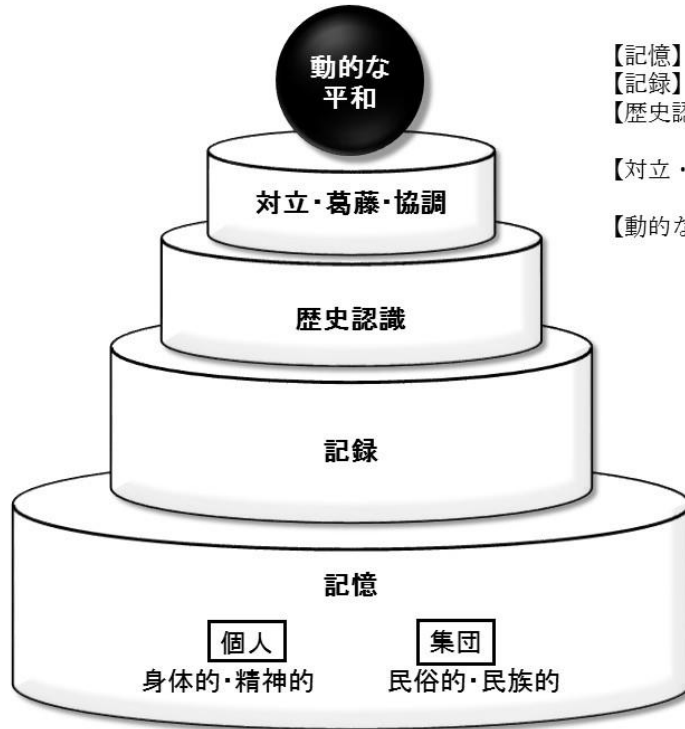


(1)横濱中華街「ピンクの語り」研究のイメージ



記憶から動的な平和までの階層図（2023年 著者作成）



- 【記憶】 個人や集団の中に保持されている
- 【記録】 記憶のうち一部が文字や画像で記録となる
- 【歴史認識】 誰がいつどの記録をどのように解釈するかで歴史認識が作られる
- 【対立・葛藤・協調】 歴史認識の違いや共同体間の話し合いにより流動的に変化していく
- 【動的な平和】 対立・葛藤・協調の波を乗り越えながら動的に地域の平和が維持される

(2023年 著者作成)

地域保健実践者が「地域・都市社会学的まなざし」を 持つことの意義に関する考察



目的

- 地域保健実践者が「地域・都市社会学的まなざし」を持つことの意義を考察し、学生の教育カリキュラムや地域保健関係者への研修に「地域・都市の社会学」を導入することを提案する。

* 地域・都市社会学的まなざし: 地域・都市の社会学の基本を学んだうえで地域を見ること、視点のとり方

背景

- 地域保健の分野で「地域」を把握する視点としては「地域診断」がある¹⁾。
- 地域を知り、地域の人々と共創することは、保健師の地域への愛着ややりがいの認識につながる事が報告されている^{2) 3)}
- 演者は医師であり、大学院で「地域・都市の社会学」を学ぶまでは、地域を学術的に把握する視点を持つ機会がなかった。
- 行政保健師を対象とした地域診断の実践に関する調査では、「潜在的健康課題を見出すことにつながる項目の実践が困難」とされており⁴⁾、より俯瞰的に地域を見つめる「地域・都市社会学的まなざし」が活用できる可能性がある。
- 新型コロナウイルス感染症の対応に注力した3年が過ぎ、従来の研修や業務が再開されてきた現在、地域保健の基盤となる「地域」を見つめ直すことは、今後の地域保健を住民と共創していく上で重要なプロセスになると考える。

1) 平成22年度「地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業」
『地域診断ガイドライン』(2011)

2) 坂本結ら、日本公衆衛生看護学会誌, Vol.12 No.1, pp.10-18 (2023)

3) 青木亜砂子, 日本公衆衛生看護学会誌, Vol.9 No.2, pp.101-111 (2020)

4) 小川克子ら 「行政保健師の地域診断の実践状況とその関連要因」

日本公衆衛生看護学会誌, Vol.7No.1, pp.32-41 (2018)

方法

- ①「地域・都市の社会学」の概要を説明し地域診断との比較を行う。
- ②「地域・都市社会学的まなざし」を持つことのメリットを考察し、
学生教育や研修への導入を提案する。

「地域・都市の社会学」とは

- 社会学の中でも「都市」や「地域」といった具体的な空間的範囲で営まれている社会生活のありようを研究対象とする分野
- 近代化という社会変動が人間社会に何をもたらし、人間社会はどのように変化していくのか、という点が根本的な問題関心⁵⁾
- 地域・都市をより具体的に把握するための眼鏡のようなもの

Simmel.『大都市と精神生活』(1903): それまでの村落的社会と都市を比較し特徴を指摘

- 経済的な分業の発達
- 都市での生活は複雑さを増す→物事を貨幣に換算、計算して考える
- 人と人とが接触する時間は平均的に短くなり一面的になる



つながりを
考えるときの
示唆

5) 森岡清志、北川由紀彦『都市と地域の社会学』放送大学教育振興会(2018)

地域診断とは

- 地域診断とは「公衆衛生を担う専門家が、**地区活動**を通して**地域課題**を明らかにし、**個人**のケアに留まらず、**集団**あるいは**地域**を対象に**ケア**を行い、**地域課題**を**軽減・解消**していく一連のプロセス」
- 「保健師は人口動態統計や各種保健統計等の**量的データ**のみでなく、地区活動を展開するなかで導かれる**質的データ**、あるいは住民から得られる**質的情報**も加えて、**横断的・縦断的**に把握されるデータを捉え、**総合的に把握**(アセスメント)する。」¹⁾と定義される。

1)平成22年度「地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業」
『地域診断ガイドライン』(2011)

地域診断と「都市・地域社会学的まなざし」の比較

| | 地域診断 | 地域・都市社会学的まなざし |
|------------|---|--|
| 内容 | 地区活動を踏まえて地域の健康課題を明らかにし、個人・集団・地域を対象にケアを行い、地域課題を軽減・解消していく | 目の前の事象について、地域的・時間的により広い文脈の中でその意義を考える |
| 対象地域 | 管轄地域 | 地域の文脈に応じてより柔軟に設定 |
| 調査対象資源 | <p>✓ 主に保健医療関連</p> <p>地域/地区の人々が活用する健康関連資源や環境</p> <p>(地域/地区の強み・弱み、人びとの価値観・交流、集える場、地理的環境、交通の利便性)</p> | <p>+ 地域の歴史・物語、文化資産etc</p> <p>言語や衣食住などの文化祭などの年中行事や風習なども含まれる</p> |
| 介入サイクルの時間軸 | <p>原則、単年度～数年度</p> <p>短期目標→今年度の計画→評価指標・評価時期→次年度の健康課題</p> | <p>「年度」に限らない</p> <p>(事柄によっては10年以上 例:地域での外国人増加)</p> <p>地域の時間軸?</p> |
| 実施目的方向性 | 健康課題の解決と住民のQOL向上 | 人々がどう地域を生活しているかを観察・調査 方向性は設定しない |
| 教材 | すでに存在 ¹⁾ | 教育・研修への導入には教材作成が必要 |

1) 平成22年度「地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業」
『地域診断ガイドライン』(2011)

考察 地域・都市社会学的まなざしのメリット

- 「なぜ？」へのヒントが得られ、自分の地域・担当業務に興味を持てる
 - 10年間の保健所管内人口増加を把握することで「業務の大変さ」を納得⁴⁾
 - 地域内格差を認識して、地域の特性を踏まえた地域保健を実践
例)つくば市(都市と郊外)
 - 外国人が多い地域における地域保健の実践
例)なぜ10年以上日本にいて日本語を話さないのか

地域診断における「地域の健康課題と改善」という意図的なまなざしと併せて、「**地域・都市社会学的まなざし**」で焦点を絞らずに広く長く地域を見ることで、従来の地域診断では見えにくかったものが見えてくる可能性



つくば市HPより

考察

「地域・都市社会学的まなざし」を養うための手法(案)

- ① それまでの自分の人生・経験から地域に関する「なぜ？」を列挙する
- ② 職種に限らず、可能な範囲でマニュアルを見ながら「自分のやりやすい」「興味がある」地域の地域/地区診断をする
- ③ 「地域・都市の社会学」に関して学び、フィールドワークを行う
(地域を自分の足で歩き、地域の人に話を聞く)
* 先生、先輩などがいると望ましい
- ④ 「なぜ？」について振り返り、気づいたことがあれば記録する。

地域・都市社会学的まなざしに関わる参考実践事例

①医学生実習での地域診断

人口が多くつながりが薄い地域/人口が少なくつながりが濃い地域

例)全市民運動会、500歳野球

→自分の地域の見つめなおし、再発見

②地域研究を実施した地域消防関係者の、地域へのまなざしの変化

虫の目(細かく見る)、鳥の目(広く見る)、魚の目(流れを見る)

例)救急要請増加の背景⁷⁾:

高齢者独居世帯率上昇→体調不良時の不安が募る

高齢者施設(医療機関併設→規制緩和で医療以外の参入)

7) 郡山『病院前救護学』第6章地域解析論(2020)

結語

- 「地域・都市社会学的まなざし」は、地域保健関係者が自分の地域の「なぜ？」を理解し、昨今の多様化・複雑化の社会において、より俯瞰的に地域を見て事業を展開していくために有用であると考えられる。
- 令和4年に改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムでは「医学・歯学・薬学教育に共通するキャッチフレーズ」として「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の育成」が掲げられた。
- 医学教育モデル・コア・カリキュラムや保健医療福祉資格にかかる共通基礎課程のモデルカリキュラム領域6「地域・社会活動とソーシャルアクション」などの学生教育や、職種を問わず地域保健関係職員の研修に「地域・都市の社会学」を導入することを提案する。

参考文献

平井太郎、松尾浩一郎、山口恵子『地域・都市の社会学 実感から問いを深める理論と方法』有斐閣(2022)

田中輝美『関係人口の社会学 人口減少時代の地域再生』大阪大学出版会(2021)

「住民組織活動を通じたソーシャル・キャピタル醸成・活用にかかる手引き」平成26年度厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあり方に関する研究班

1) 「地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業」平成22年度地域保健総合推進事業

2) 坂本結ら「地域への愛着につながる新任期保健師の経験」,日本公衆衛生看護学会誌, Vol.12 No.1, pp.10-18 (2023)

3) 青木亜砂子「中堅保健師が認識する『対象としての地域』とその認識に影響する経験」日本公衆衛生看護学会誌, Vol.9 No.2, pp.101-111 (2020)

4) 小川克子ら「行政保健師の地域診断の実践状況とその関連要因」,日本公衆衛生看護学会誌, Vol.7No.1, pp.32-41 (2018)

5) 森岡清志、北川由紀彦『都市と地域の社会学』放送大学教育振興会(2018)

6) 「地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン」平成28年度～30年度厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業)「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」

7) 郡山『病院前救護学』第6章地域解析論(2020)